



第33回 きふアジア映画祭 Report 平成23年8月20日~12月4日

ぎふアジア映画祭本年度は、7カ国12作品を上映いたしました。新しいスタッフの参加もありうれしく思います。上映作品に併せて、企画しました「清水美穂さんのゲストトーク」、「ジオラマの展示」、「中国茶サービス」もそれぞれ楽しんでいただけたと思います。また、ゲストとしてお招きいたしました石井裕也監督、川口浩史監督のお話には、非常に感動いたしました。これからも、みんなで力を合わせて映画祭を盛り上げていきたいと思ひます。



「ベルジャ猫を誰も知らない」ゲストトーク清水美穂さん 石井監督に手にサインをもらうスタッフが!! 中国茶を試飲している川口監督夫妻 ジオラマでお世話になったGMRCさんと

アジア映画祭 特別企画 さすが!! 映画監督!!

『川の底からこんにちは』 石井裕也監督
 僕は、「映画」を作りたいのではなく伝えたいものを映画という手段で表現しているのです。そう、朴訥におっしゃる姿にさすがと感じました。好きな監督にアンダーグラウンドのエミール・クストリツァ監督を挙げられました。
 トークショーの様子

『トロッコ』 川口浩史監督
 長い助監督時代を経て、初の監督作品が「トロッコ」です。センスのよさ、人脈、行動力、情熱などが伝わってくるお話でした。新婚の奥様とご一緒に来岐いただきました。
 上映後のサイン会の様子

(市民スタッフ 大江 繁美)

ワクワクドキドキの日々でした!

2011年市民スタッフに加入しました。『アジア映画祭』いつも興味津々で、ただどなかなかなか出かけられない。イラン映画? タイの映画? どんなんやろう??? というのが去年までの私。今年は楽しみました。案内の発送作業がスタッフデビュー、何でも地道な作業が表舞台を支えます。さてさて、お祭りの参加で印象深かったのは、まずはグットシアター、アジア映画祭の前哨戦でアジア以外の作品を上映。『白いリボン』奇オハネケ監督の作品でした。人間の心の底にある悪、見えざるものへの恐れ、謎、深く感じさせられ、唸りました。そして、アジア映画祭では『クロッシング』で涙し、『ブンミおじさんの森』では不思議な気分、『台北の朝、僕は恋をする』で若き日々を思ったものです。何より『川の底からこんにちは』の石井裕也監督、『トロッコ』は川口浩史監督。タイプが全然違う監督のトークショーは(お二人ともお若くてイケメンでした)、「もう一回観なくちゃ」と思わせられました。映画制作への熱い熱い思い、監督をはじめスタッフの思いが、役者の演技を引き立て、盛り上げ、非現実なれど、現実より真実に近い世界が作られる、うう…。アジア映画祭の監督トークショーは、他の劇場開催にはないフレンドリーで本音いっぱい楽しさでした。あ、映画本編はもちろん素晴らしかったですよ。皆様、2012年度のアジア映画祭で、今年も一緒にワクワク映画を楽しみましょう。ただいま作品選定中、きっとご満足いただけるお祭りとなるでしょう。どうぞご期待です! そして、御輿を担ぐと倍楽しめます。市民スタッフにも是非ご参加ください。
 (市民スタッフ 竹川 雅美)



第297回市民の劇場 市民スタッフ企画 vol.9 「見上げてごらん夜の星を」平成24年2月4・5日 映画上映&うたごえ広場 ~みんなで歌って元気になろう~

市民スタッフ事業では「映画&うたごえ」以外にもお楽しみが・・・ 恒例のロビー展示などに加え、今年は懐かしいレコードを、生音で楽しんでいただきました!!

「見上げてごらん夜の星を」の映画を製作上映された時代の前後に歌われた歌謡曲のレコードを流し、来場者の皆様に楽しんでいただくということで選曲しました。しかし、何分にもレコードの現存数に限りがあり、皆様のご協力により40枚程度手元に届きました。貴重なレコードばかりでしたが中には音声が発生しないものもあり、また、当時流行した歌謡レコード自体の傷みが激しく、声をお届け出来ないもどかしい思いもいたしました。



ロビーでの「レコードブース」お客様との交流の様子

アンコールのあったのは“世界は二人のために”(佐良直美)“北上夜曲”(ダークダックス)“異国の丘”(中村耕造)“再の酒場”(ディックミネ)“ビートルズ ヤーヤーヤ”“ダンス音楽”(タンゴ特集)等々でありました。特に、アンコールを希望された方々は、舞台出演されているお子様達のご両親と思われる年齢の人達でありました。

(市民スタッフ 田中 敏治)

プレ企画『プラネタリウムで星を見ながら…☆』

平成24年1月13日 岐阜市科学館



映画「見上げてごらん夜の星を」にちなんで、プラネタリウムでのプレ企画!! サプライズとして、濱島秀行さん奏でる、美しいヴァイオリンの音色を楽しみました。科学館の皆さんのご協力を受け、素敵な企画になりました。



出張研修に参加して 平成23年12月15 扶桑文化会館

12月15日、市民スタッフ4人と職員2人が扶桑文化会館に行き、自主事業開催の様子を見学してきました。

この、年に1、2回の自主事業を実行しているのが、NPO法人ふそう文化夢応援団です。理事長の澤木さんから次のようなお話を聴きました。「夢応援団は“はこ”に魂を入れることを目指し、平成7年から文化人の方々の講演を受け、結団しました。現在60数名の団員が、月1回の全体会議と運営会議を開き、事業の日は9班に分けた団員の中の4班で対応しています。会館内には、団員が運営する



ロビーには自主事業の手書き看板が!!



ラウンジには自主事業の写真が展示してありました。



NPO法人ふそう文化夢応援団の皆さんと

喫茶コーナーがあり、この収益金は事業金として蓄えられますが、今年は東北へ寄付しました。」そして私たち6人は、その喫茶コーナーでおいしいコーヒーやジュースをいただきました。「夢」と染め抜いた揃いの法被を着て、いきいきと活動されている姿は皆さん素敵でした。

(市民スタッフ 中島 幸子)